

合言葉「どの子供も大切」： 英国政府が目指す次世代育成のビジョン

朝日新聞は8/4から3日連続で「欧州の安心：子供を守る」という特集記事を連載した。記事は2003年に英国の労働党ブレア政権が描いた次世代育成のビジョン「Every Child Matters(どの子供も大切)」について触れている。記事では紹介されていないので、その中身を紹介したい。ビジョン説明冊子の前書きは「子供、若者、および彼らの家族の生活を改善するために私達(行政)すべてが、協働している。すべての子供と若者が、個々の潜在能力をフルに発揮できるように、また障害に直面している子供や若者がそれら障害を克服するための支援体制を作る。行政が提供するサービスの質、利用の容易さ、および担当部門間の連携を段階的に変革する」と述べている。このビジョンは5つの項目からなり、2020年を目途に下記の10のゴールを設定している。また、この「Every Child Matters」をベースに、2007年6月英国では、子供・学校・家庭担当省が設置されている。

健康促進

- ・子供と若者の健康な生活を強化する。
- ・子供の健康を改善する。具体的には、肥満、太りすぎの子供の割合を2000年のレベルに減らす。

安全確保

- ・子供の安全に関する適切な情報と支援を両親が得られる。
- ・すべての子供が学校生活を始める準備が来ている。すなわち、幼年期に求められる要件を5歳までに少なくとも90%の子供たちが発育させている。

楽しみ、かつ達成する

- ・すべての子供がSecondary School(日本の中学・高校に相当)を開始できる準備が来ている。すなわち、11歳になるまでに英語と数学の両方において期待されるレベル以上に、少なくとも90%の子供たちが達している。
- ・成人としての生活を始めるのに、または大学教育を受けるのに、必要な能力をすべての若者が習得している。すなわち、19歳までにGCSEsで上位5段階の評価レベルに、少なくとも90パーセントの若者が達している。あるいは19歳までに少なくとも70パーセントの若者が2つの科目でA評価レベルに達している。

積極的・前向きな生き方をする

- ・積極的・前向きな活動にすべての若者が参画することで、個人的技能や、対人関係スキルを育成し、幸せを促進する。また彼らが危険な環境に入り込む行動を減らす。
- ・有罪判決、懲戒処分、または記録に犯罪として残る警告を初めて受ける若者犯罪者の数を2020年までに大幅に減らす。

経済的安定を確保する

・貧困家庭の子供の数を2010年までに半減し、2020年までに根絶する。

・若者は社会人として仕事に就く準備が(企業が期待するレベルで)来ている。

学業成績を向上させ、かつ貧困家庭の子供の落ちこぼれを無くす

このビジョンでは左記の5項目に関して指標を複数設定している。例えば「楽しみ、かつ達成する」の項目では、「すべての子供と若者の学業成績を向上させる」「低収入および不利な家庭環境にある子供が学業成績において落ちこぼれることがないようにする」といった政府目標を提示し、例えば下記のような指標を設定している。

- ・KeyStage2,3の生徒では、英語と数学の両方の学力がレベル4以上を達成している比率を向上させる
- ・KeyStage4の生徒では、英語と数学を含むGCSEテストでC以上の評価を5科目以上でとっている比率を向上させる
- ・KeyStage2,4において、給食費無償の扱いを受けている貧困家庭の生徒と、それ以外の生徒との間における期待される学力レベルへの到達度の差を縮小させる

この指標を理解するために、英国の学校制度について説明しておく。小学校が6年間で、Year1-2をKey Stage 1、Year3-6をKey Stage 2と呼ぶ。その後Secondary Schoolが5年間続く。Year 7-9、Year10-11がそれぞれKey Stage 3、Key Stage 4と呼ばれる。この後は大学に進学するか、就職するか、職業訓練過程を受けるかの選択をする。

Key Stage 4ではGeneral Certificate of Secondary Education (GCSE)テストを受け自分の能力を評価することになる。合格評価はA-star, A, B, C, D, E, F, Gの8レベルであるが、採用時に企業が基準にするのはC評価以上である。このようにGCSEテストは生徒の今後の進路に大きな影響を与える大切な試験であり、このKey Stage 4の生徒(15-16歳)を持つ親は必死で支援する。ちなみに英国でこの4月に法律改正がありフレキシブル勤務プログラムを権利としてとれるのは16歳の子供を持つ親まで拡大された。16歳は子供がGCSEテストを受験する年齢であり、親が子供の受験支援することを想定しているとの解説もある。

編 | 集 | 後 | 記

英国における次世代育成のビジョンを紹介しました。資料を読み込む中で、幼児から19歳の若者まで、健康かつ能力ある人間に育て、最終的に社会で自立できるように、家庭、学校、行政が協働している様子が理解できました。日本でも「社会で立ちどころ人間に育てる」という目標が必要だと思います。野尻